

ジョンズ・ホプキンス研修報告書

研修医 2 年 金丸 詩門

私はジョンズ・ホプキンス大学のリハビリテーション科で 2015 年 6 月より 1 カ月の間研修させていただきました。

ジョンズ・ホプキンス大学はアメリカの東海岸にあるメリーランド州の都市ボルチモアの中心地に位置しています。メリーランド州最大の都市であるボルチモアはカニの名産地であると共に、港町、スポーツ、ビジネスの町でもあります。

2015 年 4 月末にはボルチモアにて起きた、黒人の抗議行動が暴動へと発展し、アメリカ全土へと波及していきました。当時夜間外出禁止令も現地では施行され、また、アメリカメジャーリーグ初の無観客試合も行われるなど、治安は最悪であったように思います。身の安全を第一にと、かなり緊張して渡米しましたが、6 月にはある程度町は落ち着きを取り戻している様子でした。とはいえ、大学周辺の治安は決して良くなく、日本の治安の悪い場所の雰囲気とはまた異なっており、1 カ月の滞在で何度か怖い思いをしたのも事実でした。

ジョンズ・ホプキンス大学の研修では 1 カ月の間リハビリテーション科でお世話になり、外来、病棟、研究と様々な分野について研修させて頂きました。リハビリテーション科は川崎医大附属病院にて 5 月に 1 カ月の間研修させていただいていたので、日本では経験できない症例や、アメリカと日本との治療方針の違いなどを経験することができました。例えば、ある黒人男性が左腕のしびれと疼痛にて外来受診された症例では、**gun shot** 後で後遺症が残っているとのことであり、銃創も診させていただきました。また、外来でのオピオイドの量の調節も、リハビリテーション科の先生がその場でされていたのはとても印象に残っています。

ジョンズ・ホプキンス大学では電子カルテを自分のスマートフォンやパソコンで自宅や旅先など、どこからでも患者さんのカルテにアクセスでき、オーダーも変えることも可能で、とても驚きました。また、家庭医からの紹介によって大学病院を受診される人がほとんどであり、紹介元の先生ともすべて電子カルテ上で患者さんの情報をやり取りできる点は感銘を受けました。

アメリカでは、4 年制大学を卒業した後、4 年間医学部（メディカルスクール）に通い、その後に研修医として働き出すので、日本とは異なっています。そのため、他の研修医は皆知識と教養に優れており、統計学にとっても詳しく、すでに研究テーマを探されている方や、4 か国語話すことのできる方など医学以外の知識の深さにも感銘を受けました。一方で、日本で 6 年間医学だけを主に勉強し、リハビリも 1 カ月間しか研修していなかった私ですが、ホプキンスでの研修医の手技や医学的知識の面では、自分が想像していたよりも大きな差はないのではないかと感じたりもしました。このことは、日本の医学教育と川崎医大での日々の研修が充実しているのではないかと感じられた瞬間

でもありました。

休日かというと、ボルチモア最大の観光名所であるインナーハーバーを散策したり、ワシントンまで赴き、スミソニアンやホワイトハウスを見学したりしました。また、ボルチモアオリオールズの本拠地でもあるカムデンヤーズへも何度か野球観戦に行きました。日本の球場とは異なり、小さな子供から女性まで、野球に興味のない人もみんなが楽しむことのできる、まさにボールパークといった雰囲気でもとても興奮しました。

今回の海外研修では短い期間でしたが、アメリカの医療だけでなく、文化や思想などにも触れることができ、人間的にも成長を実感できた1カ月間でした。是非またこのような機会があれば、チャレンジしてみようと思っています。

最後にこの度の研修を企画していただいた長谷川徹先生はじめ、リハビリテーション科椿原先生、また、先方の先生と連絡を密にとって頂いた平岡崇先生、現地に同行し、多大なサポートしていただいた安永雅先生に深く御礼申し上げます。



